

8/10 ~13 萩～白河  
子どもの心ふるさと交流事業  
●市内各所

戊辰戦争や白河踊りで築いた、本市と山口県萩市との「つながり」を次世代へ伝え、「仁の心」の継承や両市の魅力を再発見するため、交流事業を実施しました。昨年8月には本市の小学生16人が萩市を訪問し、今年は萩市から小学生15人を迎えて、市内各所でさまざまな体験をしました。



▲歓迎会では、両市長も子どもたちと交流しました



- ①稲荷山など、市内の戊辰戦争ゆかりの地を散策
- ②しらかわ盆踊りに参加
- ③白河だるまの絵付け
- ④聖ヶ岩ふるさとの森でボルダリングに挑戦
- ⑤流しそうめん体験

8/4 白河関まつり  
●小峰通り ほか

白河関の踊り流しには、23団体・約1,200人が参加し、会場は祭りの熱気に包まれました。また、元気夕市や、学生プロレスも開催されました。市民納涼花火大会では、小峰城を背景にスターマインや音楽創作花火などを含む約5,200発の花火があがり、観覧者は夏の風物詩を満喫しました。



8/5 「いじめ」について考える  
中学生フォーラム  
●市立図書館りづらん

市内中学生が、あいさつ運動や目安箱の設置など、各学校で実施しているいじめ防止策を発表しました。続けて、ネットいじめの原因と対策について話し合い、相手の気持ちを考えるなど、いじめをなくすための意識をより一層高めました。



▲グループに分かれて討論する各中学校の代表生徒

7/29 鈴木市長初登庁・就任式  
●本庁舎正面玄関 ほか

任期満了に伴う白河市長選で4選を果たした鈴木和夫市長が、多くの市民や職員の温かい拍手に迎えられ、初登庁しました。職員から花束を受け取り、4期目の抱負を述べました。

コミネスで行われた就任式では、鈴木市長が市職員に向けて「人口減少など、これまでに経験のない時代に直面しているが、自己研さんに励み、行政人としての自覚と責任のもと、ともに未来を切り拓いていきましょう」と訓示しました。職員を代表し、圓谷光昭副市長が「市長を先頭に、本市の輝かしい未来と市民福祉の増進のため、一生懸命職責を果たしていきます」と答辞を述べました。

引き続き行われた就任後初めての記者会見で「産業力の強化、子育て支援、教育の充実、文化・スポーツの振興などバランスのとれた住みよいまちづくりを進める」と決意を述べました。



8/1・2 ランニングクリニック  
●総合運動公園陸上競技場

陸上競技力の向上を目的に、本市出身の男子マラソン元日本記録保持者で、駒澤大学陸上競技部コーチである藤田敦史氏が、走る技術やメンタルトレーニングなどを講義しました。参加した中高生は、現役大学生とともにトレーニングをして、高い競争力と技術を学びました。



8/2 ~6 日独スポーツ少年団同時交流事業  
●市内各所 ほか

国際的な視野を持つ青少年を育成するため、ドイツから9人が来日し、ホームステイや、踊り流しに参加して日本文化を体験しました。高校生とのスポーツに関するディスカッション、吹き矢・スイミングなどのスポーツ活動を通して、日本・ドイツ両国の友好と親善を深めました。

